

(英語版)

(アラビア語版)

令和三年一月

地に堕ちたサウジ外交ロケット…無条件和解したGCCサミット

## 1. カタール首長が出席してGCCサミット開催

年明け早々の一月五日、サウジアラビア西北部のアルウラーでGCC定例サミット(首脳会議)が開催された。アルウラーはサウジアラビアで最初にユネスコ遺産に指定された古代ナバテア人の遺跡があり、ムハンマド皇太子(通称 Ms)がビジョン2030で力を入れている観光産業の目玉でもある。

定例サミットは通常毎年十二月に開催されるが、今回は一月に延期された。今回の会議が従来と異なる点は二つある。一つは首脳が一堂に会したことである。昨年初めから全世界に流行し今も猛威を振るう新型コロナウイルス(COVID19)のため、G7をはじめ国際的な会議はいずれもテレビ会議方式で行われている。サウジアラビアがホスト国となったG20も同様であり、また同国が中核となっているOPECあるいはOPEC+の会議もリモート方式で行われている。今回GCC首脳が一堂に会したことは異例のことと言える。

二つ目はカタールのタミーム首長が三年ぶりに出席したことである。2017年6月、サウジアラビアは突然カタールに国交断絶を通告した。同じGCC加盟国のUAE、バレーンもサウジに追随し、エジプトも同調した(カタール・ボイコット)。以来タミーム首長はサミットを欠席し続けた。しかし今回の会議でカタール・ボイコットを解消するアルウラー宣言が採択されサウジとカタール両国首脳の仲直りが演出されたのである。



## 2. カタール・ボイコットの原因とその後の経過

サウジアラビアなど四か国はカタールがシリア派のイランと気脈を通じ、またスンニ派テロ組織と見なすイスラム同胞団を支援しているとしてカタールと断交したのが事の始まりであった。四か国の中で特に強硬なUAEが主導し、カタールにイラン、ムスリム同胞団との関係を断つこと、アル

ジヤジーラテレビを閉鎖することなど十三項目の要求を突き付けた。カタールは当然それらの要求を拒否したのであった。

孤立したカタールはトルコに助けを求めて軍隊の駐留を仰ぎ、同国から食料品など生活必需品を輸入した。またカタール航空がサウジ上空の通過を妨げられた代替策としてイランに領空利用を求めた。経済不振のトルコあるいは孤立するシリア派のイランにすれば豊かなスンニ派国家カタールからの要請はまさに「漁夫の利」であつたらう。カタールがすぐに屈服すると見込んだサウジとUAEの思惑は外れた。GCCの内紛が加盟国にとつて何の利益もないことは明らかであり、クウェイトが懸命に仲介を試みたがカタール・ボイコットは数年にわたり膠着状態を続けた。

昨年後半に事態が動いた。米国トランプ大統領はイスラエルとUAE及びバハレーンの国交正常化と言つた大きな成果を得ると、続いて娘婿クシュナーをGCCに派遣し結束の回復を訴えた。米国が乗り出したのはGCCがイランを抑え込む重要な前線基地だからである。米国はカタールにウエイド空軍基地を、またバハレーンには海軍第五艦隊の基地を有し、カタールには一万人の米兵が駐留している。UAEとバハレーンがイスラエルと和平条約を締結、イスラエルの脅威は今やイランのみとなり、米国は対イラン防御網としてGCCが欠かせないのである。

### 3. サウジアラビア外交の敗北と愛想づかしをしたUAE

サウジアラビア自身もカタール・ボイコット終結のタイミングを狙っていた。イエメン内戦の泥沼の中でサウジはアデン正統政府と南部独立派の内紛に悩まされた上に、自国内への反政府フーシ派のロケット攻撃におびえている。さらにカシヨギ事件でMBSの評判は地に墮ち外交面で失地回復の手を打つ必要に駆られていた。サウジアラビアは十三条件を棚上げしてカタールとの関係回復に踏み切つたのであった。

仲介に奔走したクウェイト首長がサミット直前に亡くなったこともサルマン国王の決断を促した。皇太子MBSもサミットに出席したカタール首長を空港に出迎えて抱擁、首長と個別会談を行うなどのパフォーマンスを繰り広げ自身のイメージ回復を図つた。このようにサウジアラビア側が大きく譲歩したのに対してカタール側の譲歩はサウジあるいはUAEに対する国際機関への提訴を取り下げる約束にとどまっている。サウジ外交の一方的な敗北と言つても過言ではないであらう。

UAEには大きな不満が残つた。UAEにとつてカタールからイラン及びムスリム同胞団の影を抹殺することがボイコットの最大の眼目だった。実際UAEのオタイバ駐米大使はカタール問題がすぐに片付かないであろうとの見方を示し安易な妥協にくぎを刺していた。ところがGCC盟主の座を守りたい一心のサウジアラビアは形だけでもGCC結束を世界に示そうと十分な見返りもなしにカタールの復帰を急いだのである。

米国のクシュナーがわざわざGCCサミットに参加したのは、アルウラー宣言の共同調印式に立ち会う自己の姿を世界のメディアに宣伝するためだったはずである。イスラエルとUAEの和平ではトランプ大統領が両国トップをワシントンに招き、ホワイトハウスの庭で大々的な調印式を行って

る。それと同じ構図で M b s、U A E 及びバハレーン政府トップ、エジプト政府代表、カタール首長等と並んでアルウラー宣言署名式にクシュナー米大統領顧問が立会人として並ぶ写真が予定されていたことは間違いない。

U A E はサウジアラビアに愛想が尽きたと思われる。今回のサミット最大の成果であったはずのアルウラー宣言署名式は行われず、クシュナーとエジプト代表の参加は無駄足になった。サウジアラビア外交の罪は重い。

本件に関するコメント、意見をお聞かせください。

荒葉一也

[Arehakazuya1@gmail.com](mailto:Arehakazuya1@gmail.com)

---

<sup>1</sup> Families rejoice as G C C Summit cements the ties that bind Gulf countries  
<https://www.arabnews.com/node/1787871/middle-east>  
2021/1/5 Arab News

<sup>2</sup> Saudi Arabia restores full diplomatic relations with Qatar  
2021/1/5 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1787711/saudi-arabia>

<sup>3</sup> レポート「カタールとサウジ国交断絶」(2017年7月)及び

「サウジとカタールに決定的な亀裂」(2018年12月)参照

<sup>4</sup> 13項目については上記「カタールとサウジ国交断絶」(2017年7月)参照。

<sup>5</sup> Kushner eyes Gulf crisis on trip to region  
2020/12/2 Kuwait Times

<https://news.kuwaittimes.net/website/kushner-eyes-gulf-crisis-on-trip-to-region/>

<sup>6</sup> 同上

<sup>7</sup> Qatar dispute unlikely to be resolved soon: Otaiba  
2020/11/17 The Peninsula

<https://www.khaleejtimes.com/news/government/qatar-dispute-unlikely-to-be-resolved-soon-otaiba>